

厚田複合施設 基本構想

本 編

厚田区地域協議会
複合施設建設構想策定委員会 2015 年 5 月

【目 次】

1. はじめに
2. 基本構想の検討経過
3. 複合施設を核とした地域活性化の基本構想
4. 厚田区の年間集客状況の予測
5. 複合施設「道の駅」の管理運営のあり方

1. はじめに

厚田村は平成 17 年 10 月に石狩市との合併により自治区（厚田区）となり、地域協議会が設置されました。地域住民で組織される地域協議会は、行政との協働により地域課題を洗い出し、その解決に向けた方策を検討し、地域でできることは住民の手で行うことを合言葉に活動を行ってまいりました。

幾つかの活動団体が軌道に乗り、それぞれの組織が点から線へ結ばれ、活動範囲も厚田区全体へと広がりを見せています。地域協議会が当初目指した住民活動が点から線へ、そして面へと繋がりはじめた頃、第 4 期目（平成 23 年から 25 年）の地域協議会で吉田一男委員から「ソフト面での地域活動が軌道に乗ってきたので、地域活性化の拠点（象徴）としてのハード面の整備を総合的に行ってはどうか」という提案があり、審議の結果、複合施設の基本構想を策定する方向で承認され、第 5 期目へ引き継がれました。

第 5 期目の地域協議会で「複合施設の建設構想に伴う検討会」設置が承認され、複合施設建設構想策定委員会（以下「策定委員会」と略す）が検討を開始することとなりました。平成 25 年 12 月から平成 27 年 4 月まで、16 回の会議を経て、平成 27 年度の第 1 回目の地域協議会に提案され、審議の結果了承され石狩市長への提出という運びになりました。基本構想という難しい作業を長期にわたり検討を重ね、報告書にまとめていただきましたこと、地域協議会委員一同より改めて策定委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

報告書には、経済的機能と文化的機能を併せ持つ複合施設を地域住民がエンジンとなり強力に牽引する姿が描かれています。この構想により作成された複合施設が、今回国土交通省の「重点道の駅」に選ばれました。この快挙は先に述べたように地域住民により組織された地域協議会の第 1 期から現在の第 5 期の全ての委員の皆様が、住みよい地域にしようとする住民の熱い思いを実現するために汗を流してきた結果だと思われます。

提出された基本構想は今後、基本計画から基本設計へと住民の思いが形として姿を現します。今はまだ地域活性化への扉を開いた段階にすぎません。今後は、地域活性化に向け、大きく育てる作業があります。この作業は一段と大きな夢を育てる作業になるかもしれません。一人でも多くの人々が、住みよい地域づくりに参加していただけることを期待いたします。

厚田区地域協議会・会長 佐藤勝彦

平成 25 年度 第 8 回の地域協議会（11 月）において「複合施設の建設構想に伴う検討会」の設置について提案があり、審議の結果全会一致で承認され第 1 回 複合施設建設構想策定委員会（以下、「策定委員会」と略す）が平成 25 年 12 月 7 日に開催されました。検討に当たって、複合施設という“建物ありき”ではなく、合併後 10 年を費やし地域住民が地域活性化のために汗を流し、多くの地域支援団体（ボランティア）ができ、人を中心としたソフト充実を、より確かな地域創生へ向けハードの整備を行うことが目的である点を踏まえ、16 回の検討会を経て本提案書が作成されました。途中、「厚田十字街を元気にする会」の皆様に参加頂き、厚田を元気にする想いを積極的に提言して頂き、大変有意義な議論を展開することができました。

少子高齢化と人口減少で益々過疎化する地域で暮らし続ける住民の将来への不安を解消する地域活性化への想いは、委員全員の共通認識であり、その解決策に真摯に向かい合い議論を重ね参りました。

将来的にも人口減少が続く社会構造及び経済構造の変化に対応する地域課題を解決する糸口は、発想の転換が必要であり、右肩上がりの高度経済成長期のような価値観では、今日の社会状況を乗り切る発想は生まれてきません。

厚田の魅力は、都会では味わうことのできない貴重な“癒しの空間”を提供できることです。厚田に行くと、“ゆっくり・ゆったり”、時を忘れ、自然と触れ合い、人と触れ合い、新鮮な食と出会い、溜まったストレスを厚田の自然に置いて、代りに心豊かな気分を持ち帰ることができる”と言っていただけの厚田ならではの仕掛け・仕組みづくりが複合施設のコンセプトでもあり、十字街活性化の想いでもあります。

地域活性化の基本構想という地域の“夢と想い”が「重点道の駅」に選定され現実のものとなりました。地域の“熱い想い”が複合施設「道の駅」に結実し、地域力となって将来に続く若者の“夢と力”を育てる拠点となる事を願って本構想を提案いたします。

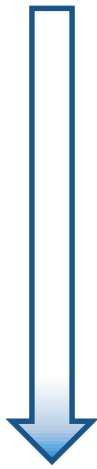
最後にアドバイザーを快くお引き受けくださいました株式会社 ISA アーキテクツ代表（一級建築士）石黒浩一郎氏には、心より感謝申し上げます。輝かしい実績と豊富な経験から貴重な専門的アドバイスを数多く受けることができました。改めて委員会を代表して御礼申し上げます。

策定委員会・会長 佐藤勝彦

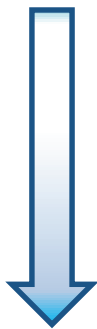
2. 基本構想の検討経過

策定委員会の開催

第1回
平成25年12月7日



第2回
平成26年1月18日



検討内容

策定委員会の目的、役割の確認を行う

【目的】複合施設の建設構想並びに運営計画を立案し、厚田区が目指す将来の姿「近接遠来（＝区内の人が喜び、区外から多くの人が訪れ賑わう活気ある“まち”）」の実現を図る。

【役割】：策定委員会は、地域住民自らが地域活性化の核となる建設構想・仕組みを検討する組織であり、厚田区が目指す将来の姿の実現に向け（運営計画を含む）地域住民が一体となり基本構想の策定を行い、市へ提案する。

委員：地域協議会（2名）、地域団体（3名）、自治会（1名）、地域住民（3名）、アドバイザー（1名）、相談役（1名）、サポーター（6名） 以上17名・・・〈資料1〉

構想策定に向けた取り組み その①

ワークショップにより構想策定のヒントを導き出そう！

「厚田の“残したいところ・・・”、“こんなもの、こんなところ・・・あったらいいね”

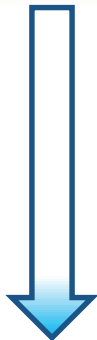
ワークショップの実施

2グループに分かれ、ブレんライティングという手法・・・〈資料2〉を用い、委員が日頃から地域活性化について考えている厚田への熱い想いを、ポストイットに書き出し、それを模造紙に貼り、グループ討議を行った。

第3回
平成26年1月30日



第4回
平成26年2月24日



第5回
平成26年3月18日



構想策定に向けた取り組み その②

ワークショップの結果、118の意見から以下の魅力が抽出された。

「食」の魅力、「景観」の魅力、「いやし」の魅力、「教育環境」の魅力、「遊び環境」の魅力、「住環境」の魅力・・・〈資料3〉

1. 複合施設における集中型・分散型のメリット・デメリットを探る。

石黒アドバイザーから分散型公共施設、集中型公共施設のレクチャーを受ける。

・・・〈資料4〉

2. 会長から以下の4点について説明を受ける。

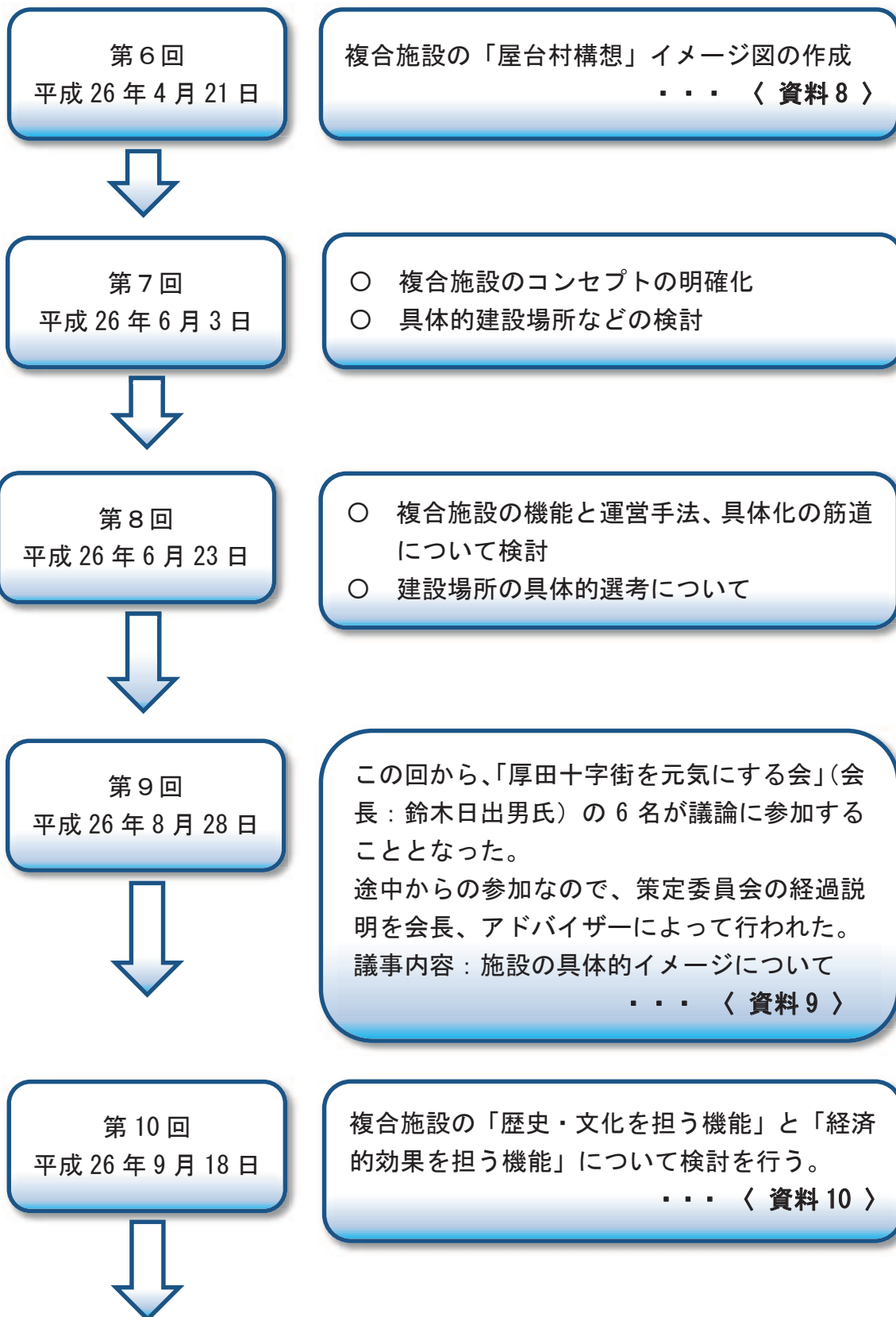
・・・〈資料5〉

- ① コミュニティの変遷
- ② コミュニティ・デザイン
- ③ 変化する社会構造
- ④ 「近説遠来」の地域づくり

複合施設の活かし方、使い方の検討

「集中型と分散型のメリット、デメリットを探る」意見をまとめる。・・・〈資料6〉

石黒アドバイザーから、「金沢21世紀美術館を例に、集中型・分散型それぞれの良いところを取り入れた施設は可能か？」というレクチャーを受ける。・・・〈資料7〉



第 11 回
平成 26 年 10 月 7 日

複合施設を核とした地域活性化の仕組み・連携
について検討を行う。



第 12 回
平成 26 年 10 月 23 日

地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型と地域の元気を創る地域センター型による一体的取り組みについて、その可能性について検討を開始する。

複合施設検討委員会が行ってきた施設についてはゲートウェイ方式で、十字街の活性化については地域センター方式で取り組むこととした。

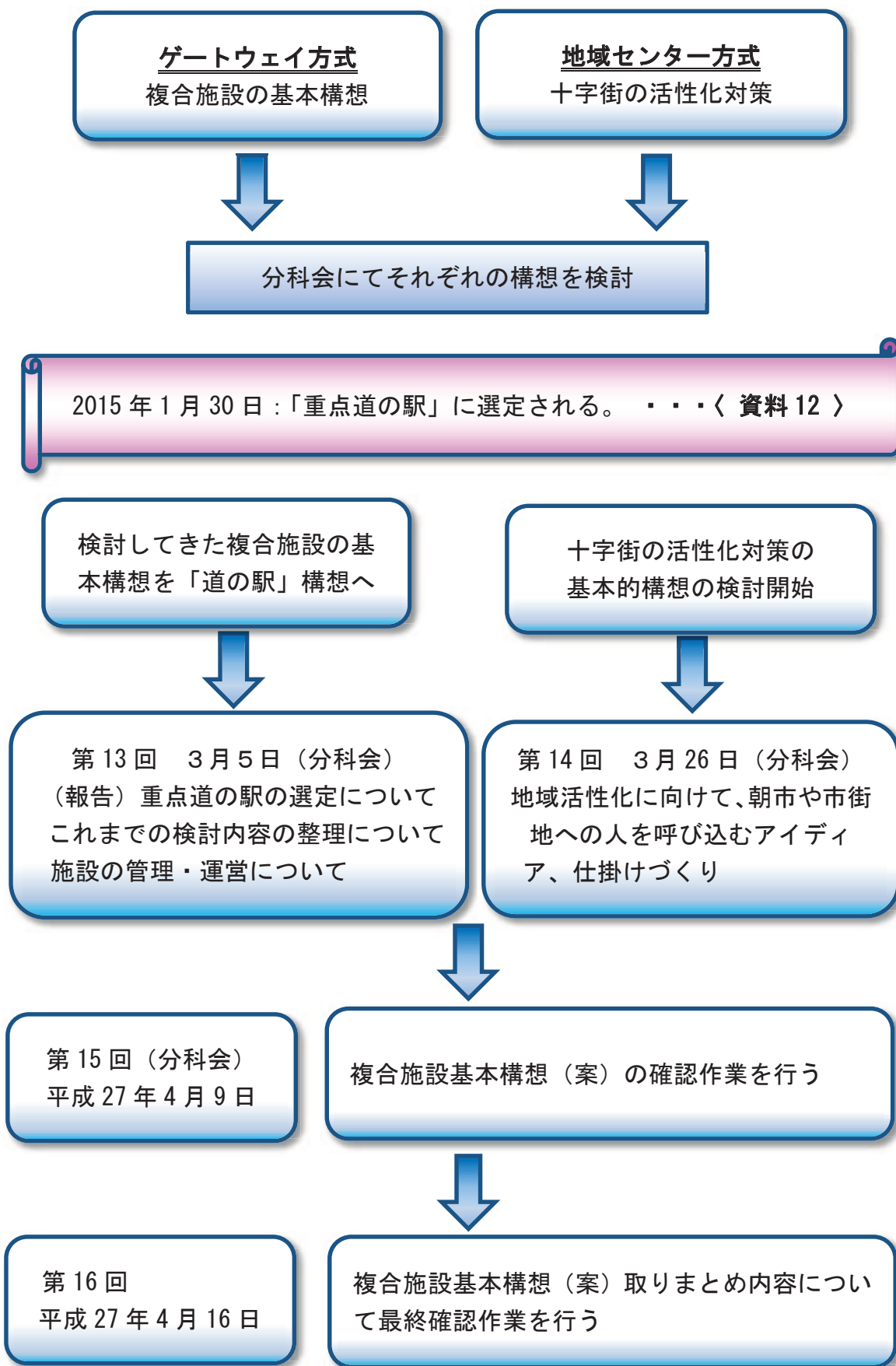
両方式は厚田の地域活性化という目標は同じでも、他地域から人を呼び込むゲートウェイ方式と地域住民の利便性や地域活動の拠点づくりのための地域センター方式は、自ずとその方法と役割が異なる。そこで、両方式は分科会によって検討を重ね具体性のある計画を策定することとなった。なお、両方式の実現のためには、財源が必要であり石狩市への財源等負担を考慮し、国土交通省が募集する「重点道の駅」への応募を行うこととした。 ・ ・ ・ 〈 資料 11 〉



両分科会の検討により複合施設及び十字街の一体的整備の全体構想（ランドデザイン）を基本構想として作成する。

財源確保等のために応募した「重点道の駅」の結果（12 月末～翌年 1 月中旬を予定）によっても全体構想のスケールとスケジュールが影響する。

従って、検討資料の作成に時間的余裕を持たせることが必要である。



3. 複合施設を核とした地域活性化の基本構想

地域活性化のコンセプト

●近説遠来（交流とふれあい）

「住んでいる人が喜んで暮らしていると、遠くからも人が集まり活気にあふれる」という意味です。この孔子の言葉を街づくりに置き換えると、厚田を訪れた人々が「景色も良い、食べ物も美味しい、人も親切、この地に住んでみたい」と言ってもらえる地域づくりを目指すということです。

●心豊かな暮らし（人を大切に）

この地域で暮らす全ての人々が“心豊かな暮らし”を実感できるには、一人ひとりが“足るを知る”暮らしを目指し、今ある暮らしから“幸福”を見つけ出すことができる“人づくり”を大切にしなければなりません。

人々の交流の場を作り、交流によって人間力を育み、地域の元気を支える活動の中に高齢者や障害者へのきめ細かなプログラムを組み入れ、世代を超えて人を大切にする風土を作り続ける必要があります。

●地域産業の振興（風土を大切に）

地産地消をコンセプトに「土地」のものを大切にし、地域資源が循環するモノづくりを推進する仕組み作りに皆で協力しましょう。第1次産業を振興し、地域で培われて生きた技と知恵を生かし後継者を育て、石狩ならではの地域ブランド化を図ります。

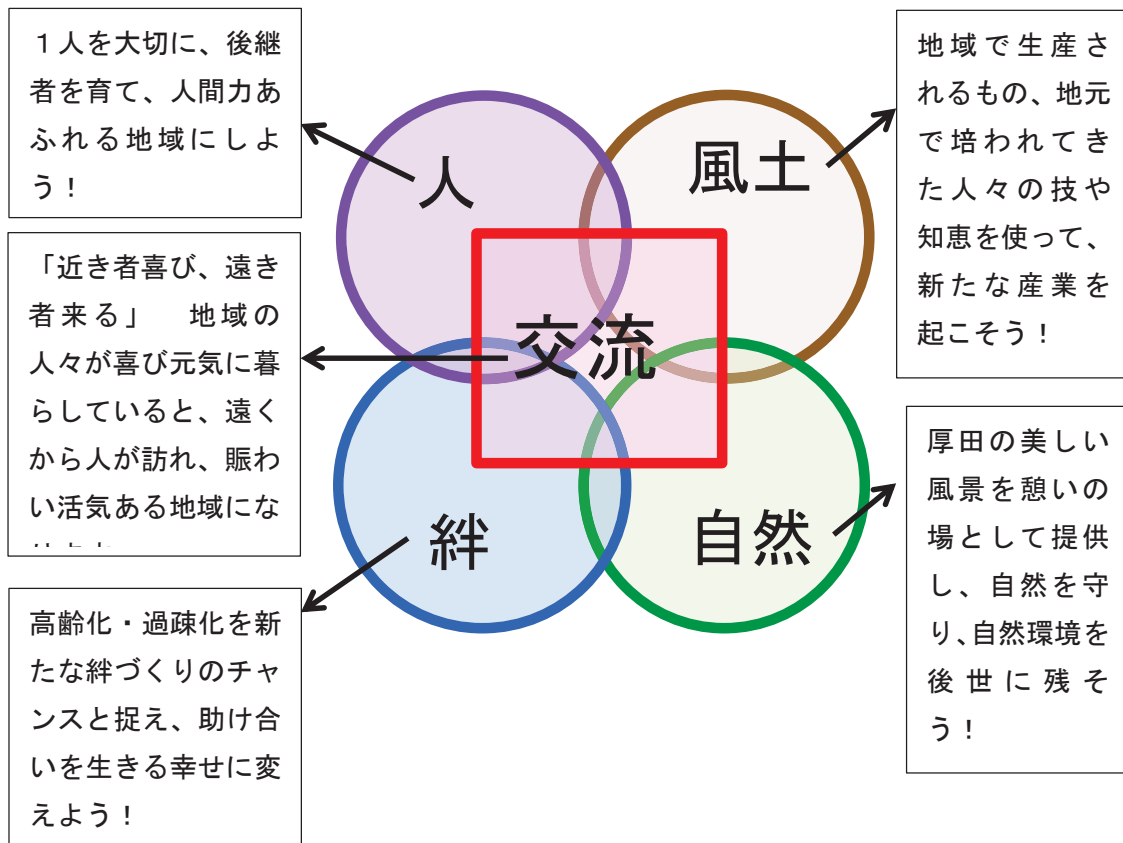
●相互扶助の精神を（絆を大切に）

高齢化と過疎化が進む地域においては、人と人との『絆』を大切にし、誰もが助け合って生きていくことが重要です。新たな人との出会いも大切にしながら、地域で生活する一人ひとりが幸せな人生だと感じることができる地域を目指します。

●自然・景観を後世に（自然を大切に）

厚田の宝は「美しい風景」です。その「美しい風景」を守り、後世に残すことが、この地域に暮らす人々の義務でもあります。自然や生活における『環』を大切にし、住民一人ひとりが自然を守り、日常生活を見直しながら環境づくりに取り組んでいくことが重要です。自然環境と生活環境が調和した美しい風景が継承されていく地域を目指します。

⇒コンセプトの具体例（資料 13）



複合施設を核とする地域活性化の目標

本施設を石狩市の将来を見通した地域活性化のひとつの拠点と位置づけ、以下の目的を達成すべき各方面との検討を重ね、地域の想い“夢を形に”の実現へ向け、英知を集め基本構想の取り組みを開始しました。

目的１：施設を中心に区内の活性化を図る。

目的２：住民の協力とアイディアにより魅力ある施設とし人の流入を図る。

目的３：厚田の歴史・文化を展示する資料館としての機能を併せ持つ。

目的４：農漁産物の販売・加工を通して１次産業の振興を図る。

目的５：市内の観光商業施設への導線（周遊）を可能とする情報発信、及び施設の認知度を高める情報の発信基地としての役割を果たす。

目的６：本施設の利活用により地域住民の活躍、及び経済活動の場の提供を図る。

目的７：防災・吹雪による一時避難場所としての機能を図る。

目的８：道路利用者の利便性を図ると共に地域住民の憩いの場としての機能を提供する。

一体整備の全体構想（グランドデザイン）

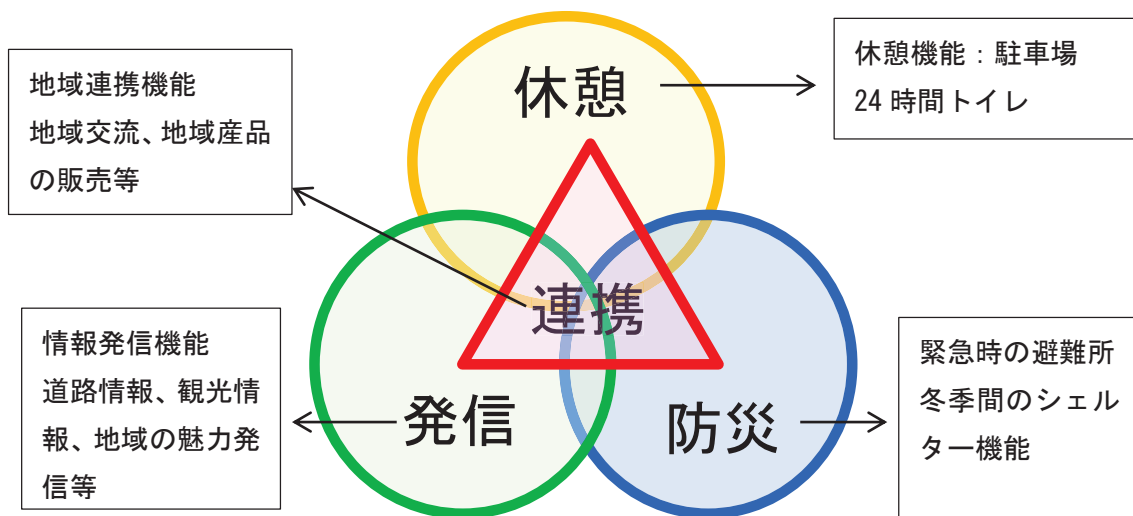
- 複合施設を核として、観光案内所・朝市・十字街・海浜プール・旧スキー場、キャンプ場を有機的に結びつける工夫を行い、厚田を訪れる人々の厚田巡りの導線（周遊）を形成し、滞在時間確保の工夫を行う。
- 自然豊かな丘陵・低山を巡る道を整備し、トレイルランニング又はトレッキングのメッカとする。
- 津波などの災害時の避難場所、及び吹雪による一時避難場所としての機能を備える。
- 過疎及び高齢化に伴う足の確保（デマンド交通＝コミュニティ・バス）、買い物難民対策の基地として利用する。
- ゲートウェイ方式による複合施設は他地域からの来客を見込み、その来客を十字街に周遊する工夫、及び十字街での受け入れ体制の整備が必要。
 - １．複合施設地下に雪室を設置し、通年を通しての農産物貯蔵場所及び生鮮土産パックの一時預かり場所として使用する。
 - ２．将来の再生エネルギー利活用を考慮した施設設備を準備する。
 - ３．将来統廃合により空き校舎が存在する場合は、宿泊施設等の利活用の方法を検討する。

複合施設（親）と十字街（子）の一体的整備



複合施設に必要な機能（親）

- ・ ・ ・ 〈 資料 15 〉



十字街に必要な機能（子）

- 朝市付近に食事・調理ができる施設を計画
- 現存する歴史的価値のある建造物の利活用を考える
- 十字街でのイベントを企画し、活性化を図る取り組みを検討する

4. 厚田区の年間集客状況の予測

- ・聚富のロイヤルシップ CC (24,874)、太平洋 CC (29,991)
 - ・望来のシャトレーゼ CC (33,558)、シャトレーゼマサリ (22,319)、戸田記念墓地公園 (402,310)、みなくる PG (17,390)
- 以下の場所は、人数が重複している可能性があります
- ・厚田の厚田公園 (34,138)、資料室 (3,224)、戸田生家 (9,021)、恋人の聖地展望台 (10,835)、公園駐車場 (31,008)、観光案内所 (22,774)、朝市 (31,500)、海浜プール (12,341)、情報発信基地 (340)、キャンプ場 (3,212)
- 以上で単純計算すると、年間約 688,835 人（平成 25 年度）
- ・国道 231 号線の交通量は、12 時間（昼間）調査で 2,610 台／日（調査地点は別狩：平成 22 年）国土交通省道路局・道路センサスより





厚田区訪問 約 688, 835 人／年



厚田区通過車両 2, 610 台／日

地域のアイデアと協力で交流人口を増やそう！

目標：交流人口 20 万人／年間と予測

- ・ 国道 231 号線の交通量は、12 時間（昼間）調査で 2, 610 台／日（調査地点は別狩：平成 22 年）であり、立寄率（平日） $0.03 \times 2, 610 = \text{約 } 78 \text{ 人}$ 、休日で $0.07 \times 2, 610 = \text{約 } 183 \text{ 人}$
- ・ 桜の時期、海水浴、お盆の時期など、季節による影響とふるさとあきあじ祭りや厚田神社祭典などイベントによっても交流人口が増加する。
- ・ 従って、これらのデータと、道内「道の駅」のデータから、おおよそ年間 20 万人と予測した。
- ・ 道内「道の駅」のデータは、『地域産品販売拠点（道の駅、農産物販売所）アンケート調査結果』（北海道）から引用した。
- ・ 施設の年間利用者数は 10 万人未満が 36%となっている一方、100 万人を越えているところもある。
- ・ 施設利用者数の季節割合の平均は、春期 27%、夏期 44%、秋期 19%、冬期 10%となっており、春期と夏期を合わせると年間の 7 割を占める。
- ・ 毎年、戸田墓地公園には約 40 万人の人々が訪れる。訪れる人々にとって厚田は特別な場所である。厚田公園には、平和記念碑や戸田生家があり、誓いの浜も近い。これらを周遊するコースの整備や情報発信は複合施設の重要な役割である。

5. 複合施設「道の駅」の管理運営のあり方

- ・ 今回の国土交通省の「重点道の駅」は、地域創生の拠点とする先駆的な取り組みをモデル箇所として選定するものでした。
- ・ 従って、地域外から活力を呼び込む「ゲートウェイ型」は、地域資源を生かした体験・交流機会の提供をおこなったり、運営スタッフなどの雇用を創出するなど、地域の経済効果を高める経営能力が問われています。
- ・ 従って、将来を見通した管理運営体制が重要課題となります。

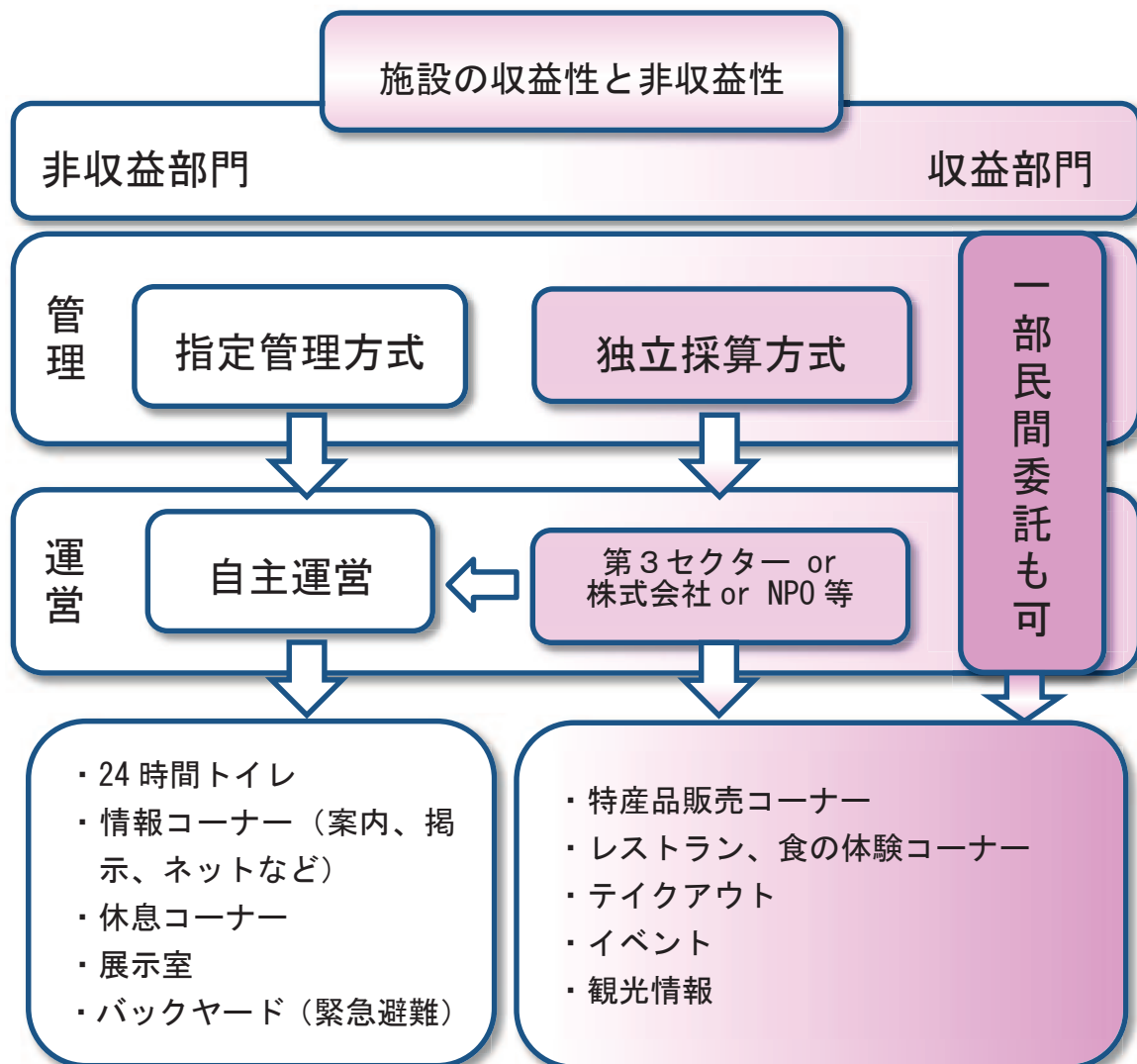


図2. 管理・運営の手法の例

運営の方向性

「道の駅」は事業性が高い施設となるため、積極的に民間の運営手法が採用されるべきである。但し、公共性のある非収益部門や「道の駅」全体の損益が未知数である当初の運営にあたっては、ある程度の幅を持たせた運営計画のもと実施されなければならない。更には、地域活性化のための産業化を目指すためにも、地域住民参加の運営手法を工夫する必要がある。

管理部門と運営部門の分離

地域活性化の中核としての「道の駅」は、集客数の増加を図りビジネスとしての収益性を追求すると同時に地域の雇用を生み出す必要がある。又、「道の駅」の機能として非収益性の施設が含まれるため、この非収益性施設の管理と収益性のある施設の運営を分離し、管理部門は収益性のある施設の運営に対しての契約更新の権限を付与し、経営部門のモチベーションと人材育成を行えるようにする。

厚田複合施設建設構想策定委員

会 長 佐 藤 勝 彦

副会長 吉 田 一 男

委 員 渡邊教円 大黒利勝 河合徳秋 河合保郎 八木政明 小山典子
高畑幸恵 高橋敬二 高橋悦子 柴田肇 本間貴士 鈴木日出男
福岡幸一 津川禎祥 相原和美 中井寿美子 後藤静代

アドバイザー 石 黒 浩 一 郎

相談役 鈴 木 徳 昭

サポーター 尾山忠洋 池垣旬 高田靖仁 栗谷幸介 渡部隆弘
永澤幸城 西田正人 熊谷隆介 相原真一 寺内由利